

こんにちは  
魚沼市議会 です



令和4年第3回定例会 No.79



「白川郷の家」魚沼水墨画教室 目黒 満さん

## CONTENTS

定例会・補正予算・議案賛否の状況・ 市民の声を聞く会のお知らせ…………… 2～3	聞かせて！あなたの声「Voice」…… 9
令和3年度会計決算…………… 4	一般質問…………… 10～17
決算審査特別委員会質疑…………… 5～8	常任・特別委員会報告…………… 18～19
	市民の声・議会TOPICS・あとがき… 20

〈発行責任者 議長 関 矢 孝 夫〉 広報広聴特別委員長 大 桃 俊 彦 副委員長 大 平 恭 児  
委員 横 山 正 樹 浅 井 宏 昭 遠 藤 徳 一 渡 辺 一 美

## 第3回定例会報告

令和4年第3回定例会が9月6日から10月3日までの28日間の会期で開催されました。

今定例会では、補正予算関係3件（一般会計2件、介護保険特会1件）、条例関係3件、そのほか案件として市有施設等工事請負契約の締結及び変更4件が提案され、いずれも原案可決となりました。

また、令和3年度会計決算の認定9件（一般会計、特別会計、企業会計）も提案され、9月27日から3日間にわたり令和3年度会計決算審査特別委員会を開催し、審査しました。次年度以降の予算に反映すべく白熱した議論が展開され、いずれの会計も認定すべきものと決定しました。詳細は5～7ページ「決算審査特別委員会Q&A」を参照ください。

陳情関係では、私学助成に関する陳情が提出されましたが、不採択となりました。討論について、詳細は8ページを参照ください。

## 第3回定例会補正予算

	補正前の額	補正額	計	主な内容
令和4年度 魚沼市一般会計 補正予算 (第3号)	313億9,580万円	7億3,710万円	321億3,290万円	新型コロナウイルス感染症対策オミクロン株対応ワクチン接種経費、食材料費高騰に係る小中学校給食賄材料費の増額及び私立保育園給食材料高騰費対策補助金、再生可能エネルギー普及促進事業補助金に係る支援内容の補充、事業者に対する省エネルギー設備等更新支援事業補助金申請件数拡大のため不足見込み分の増額など
令和4年度 魚沼市介護保険 特別会計補正予算 (第1号)	51億8,900万円	2億1,050万円	53億9,950万円	令和3年度会計の決算に伴う歳入・歳出の追加、介護報酬の改定によるもの
令和4年度 魚沼市一般会計 補正予算 (第4号)	321億3,290万円	2億2,230万円	323億5,520万円	新型コロナウイルスワクチン接種経費、住民税非課税世帯等臨時特別給付金事業

## 第3回定例会議案等

◎=全会一致 ○=賛成多数で可決・承認・採択・同意、適任 ×=否決・不採択・不承認

議案番号等	付議事件	議決結果
決 算	議案第70号 令和3年度魚沼市一般会計決算の認定について	◎
	議案第71号 令和3年度魚沼市国民健康保険特別会計決算の認定について	◎
	議案第72号 令和3年度魚沼市後期高齢者医療特別会計決算の認定について	○
	議案第73号 令和3年度魚沼市介護保険特別会計決算の認定について	◎
	議案第74号 令和3年度魚沼市工業団地造成事業特別会計決算の認定について	◎
	議案第75号 令和3年度魚沼市病院事業会計決算の認定について	◎
	議案第76号 令和3年度魚沼市ガス事業会計決算の認定について	◎
	議案第77号 令和3年度魚沼市水道事業会計決算の認定について	◎

議案番号等	付議事件	議決結果
決算 議案第78号	令和3年度魚沼市下水道事業会計決算の認定について	◎
予 算	議案第79号 令和4年度魚沼市一般会計補正予算(第3号)	◎
	議案第80号 令和4年度魚沼市介護保険特別会計補正予算(第1号)	◎
	議案第87号 令和4年度魚沼市一般会計補正予算(第4号)	◎
条 例	議案第81号 魚沼市職員の育児休業等に関する条例の一部改正について(職員の育児休業を取得しやすい勤務環境の整備等に伴い、所要の改正を行うもの)	◎
	議案第82号 魚沼市税条例等の一部改正について(地方税法等の改正による個人市民税の上場株式等の配当所得等に係る所得の課税方式見直し等に伴い、所要の改正を行うもの)	◎

◎=全会一致 ○=賛成多数で可決・承認・採択・同意、適任 ×=否決・不採択・不承認

議案番号等	付 議 事 件	議決結果
条例 議案 第83号	魚沼市医師等修学資金貸与条例の一部改正について (医師、看護師等確保の拡充を図るため、貸与を受ける者の資格要件の改正を行うもの)	◎
その他 議案 第84号	小出郷文化会館屋根・屋上防水改修工事請負契約の締結について	◎
その他 議案 第85号	堀之内体育館アリーナ棟外部改修工事請負契約の締結について	◎

議案番号等	付 議 事 件	議決結果
その他 議案 第86号	四日町排水ポンプ場土木工事請負契約の変更について	◎
その他 議案 第88号	業師スキー場ペアリフト建設工事請負契約の締結について	◎
陳情 陳情 第1号	「コロナ禍においても私立高校生が学費の心配なく学び続けられるよう、私学助成の増額・拡充を求める意見書」の採択を求める陳情	×

## 議案賛否の状況

賛否が分かれた上表の網かけの議案等について掲載

○=賛成 ●=反対 △=棄権 欠=欠席 --=除斥 ※=議長は議決に加わりません。

議案番号等	議決結果	合 計		しんせいクラブ		日本共産党		みらいの風			緑 晴 会			魚沼大地クラブ		魚沼クラブ		会派所属なし			
		賛成	反対	渡辺一美	富永三千敏	大平恭児	佐藤達雄	大桃俊彦	浅井宏昭	星野みゆき	森島守人	佐藤敏雄	佐藤肇	本田篤	志田貢	横山正樹	星直樹	遠藤徳一	桑原郁夫	高野甲子雄	関矢孝夫
議案第72号	原案可決	15	2	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	※
陳情第1号	不採択	3	14	●	●	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	※

## 議会報告会

あなたの声を聞かせてください

# 市民の声を聞く会

主催 魚沼市議会

**日時** 11月2日(水) 午後7時～午後9時ごろ

**場所** 守門会館 多目的ホール(3階)ほか

**内容** 第1部 議案の報告、質疑など  
第2部 テーマ別のグループに分かれて  
少人数での意見交換会



**経済**  
(商・工・農・観光)

**医療・福祉**

**教育**  
子育て

**まちづくり**  
地域づくり

感染症対策に十分留意した上で「市民の声を聞く会」を開催します。  
グループに分かれて少人数での意見交換会を実施します。  
より1人1人と向き合って率直なご意見をお聞きし、今後の議会活動に反映していきます。  
予約不要ですので直接会場にお越しください。

※当日はこの議会だよりが資料になりますので、お持ちください。  
※必ずマスクの着用をお願いします。

**問い合わせ** 魚沼市議会事務局 025-793-7444



# 令和3年度会計 決算審査

どのように使われた？ 私たちのお金

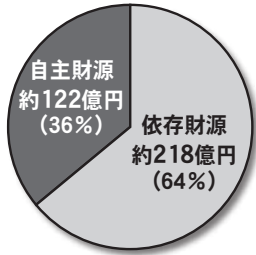
## 議会が厳しくチェック！



9月定例会は通称「決算議会」ともいわれ、定例会中に会計決算審査特別委員会(星野みゆき委員長)を設置し、9月27日から29日までの3日間にわたり令和3年度会計決算を審査しました。

委員会では、一般会計のほか、特別会計4件、企業会計4件の9会計について、市長、教育長、担当部局に対し質疑を行い、予算が計画的かつ効果的に執行されたか、次年度予算にどうか、審議を重ねました。その結果、いずれの会計も適正と判断し認定しました。これからも市民の声をいかした予算執行となるよう魚沼市議会としても務めてまいります。皆様の声をお寄せください。

### 一般会計



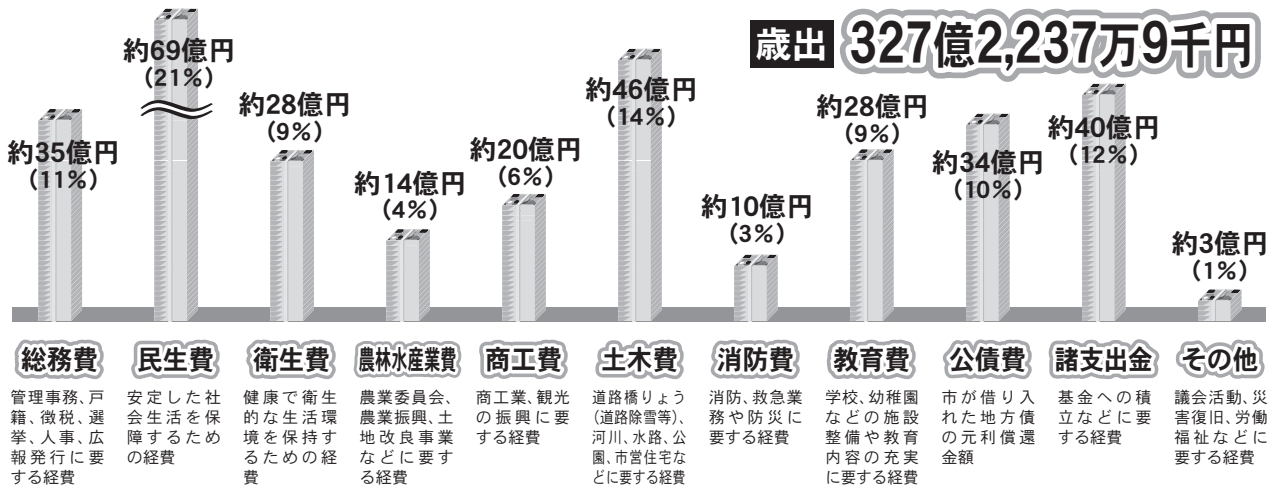
歳入 **339億6,108万2千円**

#### 依存財源とは…

地方交付税、市が借り入れた地方債など、ほかから調達するお金  
〔地方交付税、国県支出金、市債、譲与税等〕

#### 自主財源とは…

市税や使用料など市が独自に収入できるお金  
〔市税、繰入金、寄附金、諸収入等〕



歳出 **327億2,237万9千円**

- 総務費** 管理事務、戸籍、徴税、選挙、人事、広報発行に要する経費
- 民生費** 安定した社会生活を保障するための経費
- 衛生費** 健康で衛生的な生活環境を保持するための経費
- 農林水産業費** 農業委員会、農業振興、土地改良事業などに要する経費
- 商工費** 商工業、観光の振興に要する経費
- 土木費** 道路橋りょう(道路除雪等)、河川、水路、公園、市営住宅などに要する経費
- 消防費** 消防、救急業務や防災に要する経費
- 教育費** 学校、幼稚園などの施設整備や教育内容の充実に要する経費
- 公債費** 市が借り入れた地方債の元利償還金額
- 諸支出金** 基金への積立などに要する経費
- その他** 議会活動、災害復旧、労働福祉などに要する経費

### 特別会計・企業会計

差引 **12億3,870万3千円**

【特別会計】		歳入(収入)	歳出(支出)	差引
国民健康保険	事業勘定	34億2,682万9千円	33億5,344万3千円	7,338万6千円
	直営診療所施設勘定	1億4,032万4千円	1億4,002万円	30万4千円
後期高齢者医療		8億4,929万6千円	8億4,852万1千円	77万5千円
介護保険		51億9,118万円	50億579万3千円	1億3,538万7千円
工業団地造成事業		1,440万1千円	1,286万8千円	153万3千円

【企業会計】		歳入(収入)	歳出(支出)	差引
病院事業	収益的収支	7億7,871万2千円	8億7,582万9千円	▲9,711万7千円
	資本的収支	7億674万3千円	7億5,529万7千円	▲1,144万6千円
ガス事業	収益的収支	14億4,112万7千円	14億176万9千円	2,935万8千円
	資本的収支	88万5千円	1億149万6千円	▲1億61万1千円
水道事業	収益的収支	8億8,256万9千円	7億9,262万4千円	8,994万5千円
	資本的収支	2億6,492万9千円	6億2,337万3千円	▲3億5,844万4千円
下水道事業	収益的収支	23億8,139万円	22億6,651万2千円	1億1,487万8千円
	資本的収支	4億3,688万3千円	13億8,087万5千円	▲9億4,399万2千円

# 決算審査特別委員会での

## Q & A



星野みゆき委員長

### 決算審査意見書 契約金額の妥当性について

**問** 1 社入札や業務委託での価格決定の妥当性をチェックしているのか。

**答** 1 社入札では、予定価格の算出や見積書を確認し、担当者等から聞き取り調査も行っている。結果として妥当と判断した。

### 財産管理について

**問** 出資金や出捐金しゅけんきんは市の財産である。期中に出捐金を減額させた事業者があった。出資率50%未満ものは議会への報告義務がない。出資先全ての監査をしたのか。

**答** これまで出資あるいは、出捐団体等については監査をしていない。今年度中に全件の調査をしたい。

### 総括 人事管理について

**問** 令和3年度内に残業や時間外勤務が多かった職場はなかったか。

**答** コロナ関連では、健康増進課が多く、確定申告等の時期には税務課が多くなる傾向である。

**問** 年度内の異動並びに中途退職は何件あったか。

**答** 年度内の人事異動は8件、中途退職は1名である。

**問** 年度内に、健康上の理由等で長期に休んでいる職員は何名いるのか。

**答** 1カ月以上休んだ職員は14名だった。

### 地方交付税と市債と臨時財政対策債の関係について

**問** 監査委員の審査意見書に普通交付税の公債費算定額を除いた額を経年で比較検討する分かりやすいグラフと数字で示せないか。

**答** 意見書の有効活用のため次年度以降検討する。

**問** 市債残高のうち臨時財政対策債が占める割合が31%であり年々割合が高まっている。今後は公共施設再編等による公債費の増加が見込まれるため対策を講じる必要があるのではないか。

**答** 令和3年度は公債費の抑制と将来負担の軽減を図るため臨時

財政対策債の発行抑制を行った。老朽化した公共施設の改修等で多額の経費が見込まれるため公共施設整備等基金などの特定目的基金や減債基金の積み立てについて検討していく。

### 一般会計

#### 〔歳入〕

#### 森林環境譲与税について

**問** 当市は多くの森林課題を抱えているが、配分は不利といわれてきた。国に見直しを働きかけているか。

**答** 国への働きかけは直接行っていないが、人口比率の見直しと、人工林面積だけでなく天然林面積も対象に加えるよう県や北信越市長会を通じて要望している。

#### ケーブルテレビ利用料について

**問** ケーブルテレビは限られた地域サービスである。事業費が利用料で賄えていない。今後どうするのか。

**答** 現在、市民に対して意向調査を実施している。今後、多額の投資が必要なことから、調査結果も参考に判断したい。

#### 財産売り払い収入について

**問** 不用除雪車の売却収入が3,841万円余りとなった。例年より売却台数が増加した要因は何か。

**答** 例年は3〜4台であったが、令和3年度は大原スキー場で使っていた除雪車3台を加え、7台を売却した。

#### 〔歳出〕

#### 総務費

#### ●広報広聴事業

**問** FMラジオ広報のさらなる活用のため、市民とのふれあい番組などの工夫が必要ではないか。

**答** 市民とのふれあい番組については、市が委託している範囲内で検討する。

#### ●公共交通総合連携事業

**問** 乗り合いタクシーは事前予約が必要であり、利用者から使いづらいとの声がある。改善できないのか。

**答** 運行事業者の配車計画及びスムーズな運行の維持のために必要であり、ご理解いただきたい。将来的には、デジタル技術、AI技術の導入も検討し、利便性向上と効率的な運行を目指す。

**問** 路線や便数を増やすにも、運転手不足で困難な面もあると聞か、現状はどうか。

**答** 現在、運転手不足で路線運休となった事例はないが、運転手の高齢化により、今後の人材不足が懸念されている。



●衆議院議員総選挙費

問 全額国費で賄われるものと思うが、当初予算に比べ大幅な減額となった要因は何か。

答 不足がないように予算計上し、選挙終了後に、支出額の実績により、国からの委託金を精算している。

問 かなり高い投票率であった。どう評価しているのか。

答 小選挙区候補者3名とも知名度が高く、1名は魚沼市出身の候補者であり、有権者の関心が高かったためだと考えている。

民生費

●社会福祉協議会助成事業

問 団体運営費補助金の算出根拠は何か。

答 団体運営に必要な正職員人件費、臨時職員等の人件費を交付要綱により算出している。

問 職員の努力や工夫で収益が上げられるよう、一括助成ではなく事業毎に委託費を支払う方式に変えられないか。

答 社会福祉協議会の意向も聞きながら、検討する。

●生活扶助事業

問 扶助費の不用額が大きくなった要因は何か。

答 高額の治療費扶助を受ける予定の人が亡くなったためである。

問 年度内における要扶助者人数の推移はどうか。

答 223人から211人に減少している。新規に比べ死亡等で廃止となった人数が多かったことも要因である。

衛生費

●環境衛生管理事業

問 有害鳥獣捕獲許可数に比べ、捕獲数が少ない要因は何か。

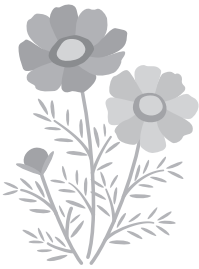
答 一定の期間内に捕獲がない場合、再度捕獲許可を申請する必要がある、相対的に許可数が多くなる。

問 年度内に購入した箱罟等はあるのか。

答 イノシシ罟等を購入している。

問 捕獲に対する報奨金など、現在の支援策はどうか。

答 クマ、イノシシに対し、1頭あたり1万円を支給している。そのほか、電気柵設置等の補助金も出している。



●農林水産業費

●中山間地域等直接支払交付金事業

問 中山間地農業が担う多面的機能の持続に対する支援事業だが、集落協定に対する活動支援の課題は何か。

答 協定を行っている構成員の高齢化、これに伴う参加者数の減少、役員になる方の後継者不足がある。農地の保全だけではなく、今後は集落機能そのものの維持も検討して行く必要がある。

●多面的機能支払交付金事業

問 農道や水路の保全事業など、地域資源向上を図る団体・組織等の、次の計画への継続手続きの方法はどうか。

答 継続意向のある組織で総会を経て次の計画へ進む。各組織がそれぞれ活動できる内容、規模、置かれている状況等かなり違う。他組織の取組内容も参考にお知らせしている。

●人・農地プラン事業

問 地域や集落での話し合いに基づき、担い手への農地集約を図っているが、課題は何か。

答 ほ場整備を契機とした農地集積は、関係者から同意を得るまで長い時間を要することになり、地域役員をはじめ、関係者の方々の負担となることが課題である。

●林道維持管理事業

問 市が管理している林道の路線数と総延長は幾らか。

答 81路線あり、総延長は196kmある。

問 大雨等で崩れたり洗掘された箇所数と復旧状況はどうか。

答 年度内に9件あったが、全て復旧が完了している。

●商工費

●緊急経済対策事業

問 プレミアム商品券を買えなかった人がいたのではないか。

答 販売期間の最終日にやっと売した状況から、買えなかった人は少ないものと思う。

問 商品券に100%プレミアムを付けた自治体は少ない。どういう思惑でそうしたのか。

答 市内商工業者に対する消費喚起即効効果を期待したものである。

●その他観光施設管理事業

問 次年度以降のスキー場運営は、足腰の強い経営体に向けた取組がなされるが、現在までの事業者の取組はどう評価するか。



**答** コロナ禍で入込客数は対前年度比108%であり、新たな組織づくりに向け営業努力がされてきた結果がでていると評価をしている。

**土木費**

**都市計画管理事業**

**問** 令和3年度は都市計画審議会が開催されなかった。魚沼市は都市計画マスタープランによる立地適正化計画も策定されているが、新たに公表された洪水ハザードマップでは計画に関連する地区が多く含まれる。検証作業は、必要でなかったか。

**答** 計画を作成したから終わりではなく、その部分の検討を常に行う必要があった。今後に向け検討を加えた中で進めていく。

**住宅リフォーム支援事業**

**問** 1次の経済効果はどの程度あったと評価しているのか。

**答** 補助金額の約9倍、5億6,400万円程度で、大きな経済押し上げ効果があったものと評価している。

**消防費**

**防災対策事業**

**問** 令和2年度、3年度と会議が開催されていない。頻発する自然災害事例検証や情報共有など、会議開催が不可欠と思うがどうか。

**答** 計画の見直しはなかったことや、コロナ禍で開催しなかった。今後定期的な開催に努め、小委員会等について検討する。

**教育費**

**小・中学校管理事業**

**問** 要保護・準要保護児童就学援助で、新型コロナウイルス感染症対策のため、学級閉鎖や学校閉鎖で登校できなかった日数の給食費についても支給対象にしたのか。

**答** 今回のコロナ禍をきっかけに、差し引くということはしないで支給し、保護者の負担軽減に寄与した。

**小学校施設整備事業**

**問** 旧井口小学校グラウンド整備について事業実績がなく、不用額とした理由は何か。

**答** 当初、芝生を植える工事を計画していたが、施工前調査において、当該部分には、根付かない可能性が高いことから実施しなかった。

**問** グラウンドに数カ所の陥没が発生したが、避難場所であり子どもたちの利用度の高いグラウンドだ。何で調査なしで不用額としたのか、危険だと思わないのか。

**答** 陥没への対応は、昨年度に修復工事を実施した。今後も注意し、危険性が認められた場合は、迅速に対応したいと考える。

**図書館管理運営事業**

**問** 図書館を含む生涯学習センター（仮称）が計画されているが、魚沼市の蔵書数は近隣自治体に比べ少ないと感じている。市民の意向を確認しながら増やすべきと思うが、どうか。

**答** 新しい図書館の蔵書数も検討しており、その数字が達成できれば、近隣自治体に遜色ない図書数になると考えている。

**災害復旧費**

**観光施設災害復旧事業**

**問** 須原スキー場リフトの安全柵が崩落した。原因は何か。管理責任はなかったか。

**答** 短期間に降った大雪による自然災害と認識している。スキー場シーズン営業前であり、スキー場事業者の管理責任はないものと思う。

**問** 須原スキー場の災害を受け、ほかのスキー場に注意喚起を行ったか。

**答** 奥只見丸山スキー場を含む4事業者の安全協議会で周知を図った。



**特別会計・企業会計**

**水道事業会計**

**水道料金について**

**問** 市の水道料金は他市に比べても安い。安定供給や投資に見合ったものとなっているのか。

**答** 4年に1度検証している。一般会計からの繰り入れや一定程度の投資を見込んだ結果、値上げせず現状維持で考えている。

**問** 有収率の低下が毎年問題となっている。年度内に行った対策は何か。

**答** 老朽管の入れ替え約2km、配水管の漏水修繕35件、延長40kmの漏水調査を実施した。

**下水道事業会計**

**下水道料金について**

**問** 市の下水道料金は他市に比べて高い。下げられない理由は何か。

**答** 汚水処理場と地形の関係でポンプ場の箇所が多く、多額の費用が掛かるためである。

**処理場施設の統合について**

**問** 農業集落排水等の処理場を流域処理に接続、統合の今後の計画はどうか。

**答** 令和21年度に流域接続完了を見据え、順次統合を進めている。

## 議案第72号 令和3年度

## 後期高齢者医療特別会計決算



## 反対討論

そもそも、保険料や窓口負担を増やし続けてきた。市で行うことは限りがあるが、国に対して、元の1割負担に戻してもらおうように意見を上げるべきだ。年金暮らしの75歳以上の方々は非常に厳しい生活を余儀なくされている。経済的な理由で医療を受けられなくなることは絶対に避けなければならぬ。現役世代の負担を考えて75歳以上の負担を増やしてきたが、実際はこの10月からの2割負担でも一人あたりの実質負担は、月々30円程度と極わずかな抑制にしかなくなっていないことが国の調査で分かっている。高齢者医療がどうしたら良い制度として構築できるか。真剣に考えることが必要と考え反対する。

た制度（国保・健保）から移行し、後期高齢者の独立した医療制度に組み入れられる制度となっている。

後期高齢者医療制度の医療費は、社会全体で支え合う仕組みで、被保険者が医療給付費の約1割を保険料で負担することとなる。後の医療給付費の約5割が公費、約4割が後期高齢者支援金として現役世代の保険料で賄っている。

令和2、3年度の保険料均等割額は40、400円と全国で一番低い保険料で後期高齢者医療制度の保険料率は、2年ごとに見直しが行われる。ちなみに、令和4、5年度の被保険者数は、団塊世代の加入により大幅に増加が見込まれ、支出も増加する見込みだが、現行料率で不足する分は剰余金を充て、保険料は令和3年度と同じ40、400円で維持されている。また、單身世帯での年金収入のみの方の保険料額の目安は、年金収入153万円以下で均等割額7割軽減12、120円、所得割額0円で年間保険料額12、1

## 賛成討論

後期高齢者医療保険制度は、2008年度の制度開始から14年が経過し、75歳以上になるとそれまで加入してい

00円（100円未満切捨て）となり、月額1、008円の負担の保険制度となる。入院などの医療費が高額になる場合は、高額療養費制度の適用で負担を抑えることができる。令和3年度の被保険者数370、911人、今後は年間約1万人増え続けることが予測され、後期高齢者を支える生産人口数は減少していく。

そのような中で、後期高齢者医療保険制度を維持していくためには、現役世代の負担を抑える措置としての自己負担割合、窓口割合の見直しの中、県後期高齢者医療広域連合と連携しながら円滑な事業運営を行っていることを評価し賛成する。

## 陳情に関する討論

## 陳情第1号

「コロナ禍においても私立高校生が学費の心配なく学び続けられるよう、私学助成の増額・拡充を求める意見書」の採択を求める陳情

## 賛成討論

私立高校が独自の「建学の精神」に基づき豊かな教育の担い手として県内で果たしている役割の重要性を陳情の

趣旨としている。私もその通りだと思う。公立や私立の特徴を生かす教育は、将来を担う若い世代の人格の形成や知識及び教養を身につける場として欠かせない。人々が学ぶことには入り口で差はもうけないことが世界の共通認識だ。公立・私立の間格差はなくすべきだ。世界では、貧困や飢餓で生きることは大変なことが未だに続き、国連は世界各国に国際人権規約に基づき教育の無償化を進め、日本も批准している。国は必要な費用の予算措置を行うべきと考えため、賛成する。

## 反対討論

現在、魚沼市内には2校の県立高校があるが、いずれの学校でも生徒の減少によりクラスは減少し、その年によつては募集定員にも満たない状況である。

私は私立高校への支援を手厚くすることも重要だと考えるが、私立高校への助成による魚沼から生徒が流出するという観点から見て今回の陳情には反対する。



# Voice

聞かせて！あなたの声

## 魚沼太極拳クラブ × 市議会

地域で活躍する皆さんと、ざっくばらんに語り合うコーナーです。  
第11回目は、魚沼太極拳クラブの皆さんから活動内容や市議会への思いについて伺いました。



今回の取材は、職場体験に来ていた小出中学校の生徒さん2名と行ない、太極拳の魅力などインタビューをしました。

### 会の設立・活動内容

魚沼市太極拳クラブは、平成19年に公民館事業として、健康増進や運動不足の改善を目的にスタートしました。現在のメンバーは魚沼市、南魚沼市、湯沢町の計16人です。

活動内容は、太極拳の練習、技能検定、各種イベントへの参加などです。活動日は、毎週水曜日の昼間に北部公民館で、毎週木曜日の夜間に伊米ヶ崎公民館で実施しています。



### 魅力、やっていてよかったこと

- 中国三千年の歴史を感じる太極拳は、奥深く、踊りも剣も型がたくさんあります。
- 踊りのような動きで、身体が整い、力を使わない運動で、軸がとても大切でどんな運動にも繋がります。
- 集中することで、一つ一つの動作が相手を意識して行うため、型を覚えるのに1年半以上かかります。
- 始めてからしばらく経つと、呼吸が整い、身体のバランスがよくなってきます。風邪にもインフルエンザにもかからなくなり、自律神経も整うので、不眠の方にもおすすめです。

講師の佐藤さんは、当初、生徒として入り、ここまで自分でのめり込むとは思わなかったそうです。

### 市議会に一言

北部公民館には駐車場が少ないため、駐車場を増やして欲しい。

生涯にわたる健康づくりのため、夏場でも快適に実施できるよう公共施設内にエアコン等の設備を導入して欲しい。



今回取材させていただいた魚沼太極拳クラブは、古来より中国に伝承されている武術に取り組んでいる団体です。

実際に太極拳の演武を拝見させてもらったところ、とても柔らかくゆったりとした動きでした。片足になることもあるため脚筋力や全身のバランスが重要な運動だと感じました。運動中は皆さんが真剣なまなざしで演武していて、演武が終わると生き生きとした表情になっていたのがとても印象的でした。



浅井 宏昭

# 上条会館の放置物について問う



1階の給食室には10年程前から古民具が放置されているが、今後の市の対応について問う。

**問** 古民具は文化財の扱いでいいのか。文化財であれば、給食室に放置しておくのはどうなのか。

**答** 古民具は、文化財である。全てを展示・保存するスペースがなかったことから、仮置きをしている状態がそのまま続いてしまった。適切な状況ではなかったと認識している。今後は、校舎棟のほうへ移す方向で検討していく。

**問** 古民具の撤去を要望しても実現してもらえなかった地元感情をどう受け止めているか。

**答** 要望に対して行き違いがあったようなので、古民具は校舎棟へ移すように検討したい。

**問** 一刻も早く撤去、移動させるべきではないか。

**答** 給食室を上条コミュニティ協議会で使うという計画があったらその時期にあわせて撤去するつもりであった。避難所の機能もあるのでなるべく早く進めていきたい。

体育施設での熱中症予防について

**問** 今後、熱中症対策として体育施設にエアコン機能を有したものを導入する必要があると考える。文部科学省も、体育館にエアコンを導入する必要性があるとしているがどのように考えるか。

**答** 市として今現在は考えていない。

**問** キャスター付きで設置工事なども必要なく、手軽さもある大型のスポットエアコンを導入してはどうか。

**答** スポットエアコンについては勉強不足な部分もあるので今後調べていきたい。



星野みゆき

# 生理の貧困について問う



**問** コロナ禍の影響を受けて、経済的理由等により必要な生理用品を十分に用意することができない「生理の貧困問題」が注目されている。この問題に関し、困難や不安を抱える女性の支援につなげるきっかけとするため、生理用品を配布している自治体が増えている。

学校トイレへの生理用品の設置が必要と考えるがどうか。

**答** 今後取り組むべき課題と考える。養護教諭等と相談しながら、各学校の実態や管理方法、予算規模を含め、どのような方法で行うことが望ましいのかを今後検討していく。

男性の育児休暇取得について

**問** 育児休業を促進するための取組の考えはどうか。

**答** 育児休業の取得しやすい職場環境にしていくことが重要だと考えている。

**問** 市独自で男性の育児休業取得促進奨励金を設ける考えはないか。

**答** 男性の育児休業取得を進めるために、一定の条件を満たす事業主や従業員に対し奨励金を支給する自治体が増えているようである。このような取組によって市内に働きやすい職場を増やすこと、市内企業の人材確保、人口流出を抑制するうえでも大変有効であると考えている。近隣市の状況をみながら制度創設について検討する。





森島 守人

# 魚沼市の農業施策について問う



**問** 2020年の農林業センサスによると、毎年100の経営体が農業から離れている現状である。「農業を守る」、「食を守る」観点からこの状況に対して、今後どのような施策を考えているのか。

**答** 国に誇るブランド米の生産地である本市は、営農者にとっては魅力的な地域である。その中で「農業を守ろう」と努力する方々がいつまでも農業を続けられるよう、担い手や大規模農家に限らず、若者や中規模農家や新規就農者への支援も継続して取り組んでいく。

**問** 現在、市単独事業として農業用機械導入時の支援に、事業要件を10ha以上の耕作をしている者としている。耕作面積にとらわれず、3ha以上の農地を持つ者を対象に実施する考えはないか。

**答** 現在、農業機械の購入支援に係る面積要件の緩和に向けて調査を行なっているため、その結果を施策に反映したい。

マイナンバーカードの交付率による交付税の影響について問う

**問** 普通交付税の算定にマイナンバーカード交付率を反映させることについて、市長はどのように捉えているか。

**答** 普通交付税の在り方やマイナンバーカード交付率の交付税反映手法に対しては、地方交付税の本旨から逸脱するものであると考える。マイナンバーカードの交付率が普通交付税の算定に反映されることがないよう、県市長会等を通じ国へ要望している。

**問** マイナンバーカードの交付率を引き上げるには、どのような取組が必要であると考えるか。  
(令和4年8月31日時点における魚沼市の交付率42・6%)

**答** 普及が伸び悩んでいるのは、市民がマイナンバーカードを持つことにメリットを感じていないことが要因であると考える。交付率を引き上げるには、市民がカードを保有することに具体的なメリットを実感できるように取組が求められる。現行の活用策の周知と共に市でもデジタル活用の具体策を検討したい。



大桃 俊彦

# 公立中学校部活動の地域移行について問う



スポーツ庁と文化庁は、2023年度からの3年間を「改革集中期間」とし公立中学校の部活動を地域移行とする改革を示した。以下4点について見解を問う。

**問** 部活動の受皿はどこと考えるか。

**答** 運動部はスポーツ協会、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ、競技団体を想定している。文化部は文化活動に携わる関係者と運営主体となるる団体について協議していく。

**問** 地域移行で一番の問題は何か。

**答** 国県の財政支援や大会の在り方など具体化されていない中で、今までのないシステムをつくり地域移行を進めていくことである。

**問** 受益者負担に対する理解調査は行われているか。

**答** 小学5・6年生、中学生とその保護者には、アンケートを実施したが受益者負担の理解調査は実施していない。今までの部活動と負担が大きく変わらないよう検討委員会を検討していく。

**問** 改革集中期間のタイムスケジュールは示されるか。

**答** 「魚沼市休日部活動の地域移行ステップ」を公表し、指導者・保護者に知らせる。

公共施設のバリアフリー化について

**問** 公共施設が多機能トイレやエレベーター(EV)には、対応が遅れていると感じている。そこで次の点について問う。

**問** 魚沼市の公共施設で多機能トイレやEVを備えている施設はどのくらいあるか。

**答** 公共施設286施設中、多機能トイレ65施設、EVは46施設である。

**問** 65施設が多機能のトイレは利用者が少ないものであり、私の言う多機能トイレとは、広い扉とブースでオストメイト者が利用でき、障害者が使い勝手の良いトイレのことを言っている。多機能トイレやストレッチャが入るEVの設置をどのように考え今後の設置計画はあるか。

**答** 公共施設の中で、ストレッチャが入るEVは正確に把握していないが、病院を除き、ないものと認識している。また、多目的トイレの設置は必要だと考えている。未整備施設は、大規模改修時に必要性を検討し整備を進めたい。

**問** 災害時、避難所として体育館等の優先度は高いと思う。住んでよし、訪れてよしを目指す魚沼市なら普通に設置がされて、障害のある方が安心して訪れる環境づくりが必要だ。

**答** 大事な話なので検討をしていく。





佐藤 敏雄

### 畜産の悪臭対策について問う



**問** 産業厚生委員会にて行政視察として「市街地における豚舎の臭気対策」について横浜市泉区の(有)横山養豚で視察・研修を受けてきた。

同社は肉豚飼育を実施し、臭気対策として、オゾン発生装置を導入して既に20年以上経過しているが、近隣住民から悪臭の苦情は出ていない。魚沼市では、湯之谷地域を中心に広い範囲で長年にわたって豚舎の悪臭に苦しめられてきた。今回視察した優良事例を参考に、当市において臭気対策への取組をさらに強化すべきと考える。

市長は、豚舎の臭気対策については、選挙戦でも訴えてきた。人任せでなく一緒に取り組んでいくと言っていたが、具体的にはどうだったか。吉田地区は当市の玄関口で、深雪の里、大型スーパーや一般住宅など交流人口、定住人口の多い地域であり、この地域の悪臭対策は喫緊の課題である。魚沼市の公害対策として、国

県等からの財政支出など、早急な支援策も必要と思うが市長の見解を問う。

**答** 昨年度は、事業者との面談を4回行ない、畜産環境の改善を引き続き促している。こうした中、事業者の取組として、自社広告による堆肥販売を積極的に実施し、多くの堆肥搬出を行なったことにより、夏場の臭気苦情はほとんどなく、事業者の取組として一定の効果が表れたものと推察する。市長としては、複数回にわたり事業者へ直接強く訴えてきた。財政支援としては、畜産振興の観点から臭気を抑制する薬剤補助を実施した。本年度は、畜産指導を所管する県と、畜産臭気問題等の専門家である畜産環境アドバイザーと市で現地確認を実施し、私も同行する予定となっている。専門知識を有する方を交えて事業者と意見交換を行なうことで、効果的な対策を進めていく。



遠藤 徳一

### 公民館、コミ協事業等による「市民の学びの場」を政策に生かせ



**問** 公民館機能は市民にとってどのような立ち位置か。

**答** 生活の中で市民が気軽に集うことができる場であり、自らの興味や関心に基つき知識や技術を学ぶ場である。地域の様々な機関や団体等とのネットワークを形成し、人づくりや地域づくりに貢献する場であると認識している。

**問** 公民館事業とコミ協担当部署は違うが協働領域も含め住み分けは明確か。

**答** コミュニティ協議会は、市民による地域づくりの活動について主体的に取り組む、公民館は、市民の学びの拠点として取り組んでいる。双方が協力し合い事業を進めている。

**問** 公民館事業で行う地域講座の内容は、文化、歴史、自然、芸術等多岐にわたるが講座の多くが個々の趣味・興味の「点」として開催される

「面」として広がらない。地域資源を学ぶ「市民の学びの場」を観光施策やまちづくり施策に生かせないか。

**答** 現在、公民館での地域講座の多くは個々の学びの場として開催され、現状、地域情報の発信や地域資源の活用が弱いところは否めないところである。庁内の関係部署と情報共有を行いながら、講座の在り方や内容を検討していく。

**問** 公民館は「市民の学びの拠点、地域づくりの拠点」としての役割を持つ。地域資源をデータベース化して市民が検索しやすい環境を整えれば農商工親連携による新規産業の創設、経済強化に繋がると思うがデータベース化に取り組まないか。

**答** 作成の経費や労力と、作成後の活用度合いを考えたときに、庁内の関係部局との横断的な連携による講座内容や持ち方の工夫を先に取り組むべきと考える。



本田 篤

## 境界線上精神遅滞の支援を問う



**問** 当市図書館蔵書の宮口幸治著作「ケーキの切れない非行少年たち」は、ごく普通の少年が非行や犯罪に走ってしまうことを描いた話題作である。

**答** この本では、境界線上にある精神遅滞を取り上げているが、学校教育でも見落とされがちで、体系的な支援はなされていないとみる。教育現場をつかさどる立場として、どう捉え、どう支援していくか。

**問** 学校現場で大事なことは、一人一人の子どもたちをいかに支え、育てるかということだと考える。特別支援教育の進展と理解が進む中、その発見と支援について各学校で取り組んでいる。また、子育て支援センターにおいては、就学前から親子で通う療育教室を実施し、保育計画の策定や保護者支援プログラムを行っている。就学時は、特別支援学校や特別支援学級がよいのか、あるいは、通常の学級がよいのかなど、児童本人の学びに最も適した学習環境をその時々が発達段階にあわせて本人や保護者と一緒に考え、支援を行っている。

ギフトテッドを探せ！

**問** ギフトテッドとは、高い知性や精神性を持ち、特定分野で才能を発揮する子どもたちを指す言葉である。ギフトテッドは社会の中に埋もれがちで、国も指導法や支援策を検討中である。

**答** オンリーワン教育を行う当市において、ギフトテッド支援は取り組みやすいと考える。ギフトテッドの早期の発見と支援を行うべきではないか。

**問** 国もようやく論点を整理し始めた段階であり、本市でも「多様性を認め合い、主体的に学びあう学級づくり」を目指しているところである。市としてその早期発見や医療機関との連携を検討する段階ではなく、同様に、そのような観点での医療機関との特段の連携を図っている状況ではないと考える。支援については、「個別最適な学びを通じて個々の資質・能力を育成すること」と、児童生徒がお互いの違いを認め合い、「学びあう」という観点から適切に行っていく。



桑原 郁夫

## 市道透水舗装の推進について問う



**問** 自然環境都市宣言をしている当市としては、地下水を保持し自然環境を守り地球を大切にするためにも透水性舗装に改良していくべきと考えるが市長の見解を問う。

**答** 透水性舗装は、冬期に凍結する場合があり、それを繰り返すことにより舗装が破壊されることや、除雪機のチェーンにより表面が痛みやすいこと等、耐久性に問題があるため、本市のような豪雪地帯には適していないと考えている。したがって今後の技術開発に期待する。

**問** 高速インターチェンジ名称変更時にもたらされる経済効果について問う。

**答** 高速インターチェンジ名称変更時にもたらされる経済効果について問う。

**問** インターチェンジの名称変更

をすることにより、魚沼市に訪れてみたいと思う人がどれだけ増えるかという調査を基に、地域経済にもたらされる推計波及効果をコンサルティング会社に依頼し進めている。この推計結果を基にネクスコ東日本等の関係機関と本格的な調整に入りたいと考えている。来訪客を呼び込むための具体的な方策は今後検討する必要がある。観光客の誘客に留まらず企業誘致や商工業の振興や移住・定住にも力を入れていく。

**問** 名称変更に伴う波及効果について市民の声を聞く機会を設けないか。

**答** 10月中旬にコンサルティング会社から回答が出てくるので、その後意見を聞いていく。ただし、名称変更しただけでは効果は薄いと考えるので、そこでどういう施策で経済効果を上げていくかということが大切であると考えている。



富永三千敏

### 補助事業の自主獲得と コンパクトなまちづく りの進展を



国の指示による各種計画策定のため  
の事業費やコロナ対策等で国など  
から補助金がきているが、自ら補助  
事業を見つけ出し、活用しないか。  
それが税収と同等にもなり、市民に  
とって有効な施策の実現が可能にな  
る。そこで、次の点を問う。

**問** 獲得した補助事業の内容、種  
別、事業費等を分類し整理してい  
るか。そのための専門職員を配置す  
べきかどうか。

**答** 国・県の補助事業は、「自主  
獲得」という概念がなく、そのよう  
な区分で集計は行っていないため、  
事業数や事業内容、金額は把握して  
いないが、国や県の施策に対する補  
助金のほか、毎年度市が独自に行う  
市道整備費に係る補助事業として、  
社会資本総合交付金などの国庫補助  
金の交付を受けている。  
また、専門職員等の配置はしてい  
ないが、既設及び新設の補助事業な

どの情報は、対象事業となるかを含  
め、それぞれの部署において情報収  
集等をしながら、補助事業の確保に  
務めている。

**問** 人口減少により人口の点在化  
が進み、地域公共交通も十分といえ  
ない。暮らしやすいまち、暮らし続  
けられるまちを目指し、第2次総合  
計画を踏まえた都市計画マスタープ  
ラン、立地適正化計画、そして地域  
公共交通計画など各種計画に基づ  
き、コンパクトなまちづくりを進め  
るべきである。早く行動するべきだ  
がどうか。

**答** 各種計画の基本的な考え方に  
沿って、都市機能誘導区域として位  
置つける地域に行政、医療、生涯学  
習、福祉、集会施設等の日常生活に  
必要な施設をできるところから誘導  
し、居住誘導区域として位置づける  
地域に居住建設が促進されるよう誘  
導を図っていく。



星 直樹

### 除雪オペレーター担い 手確保について問う



**問** 除雪オペレーターも高齢化が  
進んでいる。担い手確保に向けて免  
許取得の補助を考えてはどうか。

**答** 昨年3月の新潟県除雪オペレ  
ーター担い手確保協議会の設立を契  
機に、各地で具体的な取組が始まっ  
ている。本市管内においても、魚沼  
地域振興局地域整備部が主催する協  
議会が発足し、検討が進められてい  
るので、会議における意見を踏まえ  
ながら免許取得に係る補助を含め、  
市として具体的な検討を行なっていく。  
観光振興について

**問** 滝雲見学者が日帰りで終わら  
ず、宿泊してもらおうのが理想である。  
単発で終わらず長時間滞在してもら  
う策は練っているのか。

**答** 滝雲シャトルの実証実験にお  
いて、市内宿泊の場合は、宿泊証明  
券の掲示で、今シーズンはシャトル  
の乗車を無料とし、滝雲見学を宿泊  
につなげる取組は引き続き実施す  
る。また、シャトルの出発点となる  
施設の指定管理者からは、早朝の温

泉営業や朝食販売の提案もあり、地  
域活性の一助につながっている。さ  
らには、駒ヶ岳登山者には、在来バ  
スの浦佐・奥只見線に乗り継げるよ  
う復路の臨時便を運行し、二次交通  
の充実を図ること、浦佐駅から公  
共交通と滝雲シャトルの利用で滝  
雲、駒ヶ岳登山の周遊も可能となる  
ことから新たな宿泊客の増加につな  
がることを期待する。貴重な自然景  
観である滝雲の人数増加を宿泊や周  
辺観光などにつなげる絶好のチャン  
スとして捉え、滞在時間を拡大でき  
る施策を観光事業者とともに実施し  
ていく。

小・中学生の夏休みの過ごし方につ  
いて

**問** 多くの小・中学生が北部プー  
ルを利用している。今後の改修予定  
はあるか。

**答** 市の公共施設等総合管理計画  
により、必要な改修はしたいと考  
える。老朽度、緊急度、今後の使い方  
を検討しながら考えていく。





志田 貢

## カルト問題について問う



**問** 一般的にカルトと呼ばれる団体により、人生を破壊させられる事件が後を絶たない。カルト団体は、一人暮らしの人々や生活面での弱者等をターゲットに、人間関係や心の不安定な隙間に入り、徐々に引き込んで、金銭の要求や悪徳商法などを駆使していかうとする。当市においてもカルト団体による市民への浸蝕を水際で防止する必要がある。

カルト団体について昨今の報道や市内の状況を考え見た中で市長の認識を問う。

**答** 人権侵害や精神的支配によって苦しんだり、大切な資産を失ったりする人がいるということは、大変胸が痛むことで、人の心を支配し、心の弱みにつけ込んだ行為はあってはならないものと考えている。

**問** 悪徳商法など悪徳商法の相談や被害状況はどうなっているか。

**答** 現在、相談や被害報告は受けていない。今後、相談があった場合は、警察をはじめ関係機関と連携し、問題解決を図るため市として協力していく。

**問** 水際防止については、振込詐欺防止策と同等に扱い、市民に啓発

すべきと考えるがどうか。

**答** カルト団体に関する注意喚起は難しいものがあるが、悪徳商法などの悪徳商法の事例などをホームページに掲載し、注意喚起を図りたい。

認知症高齢者等個人賠償責任保険について

**問** 三条市は認知症の市民が徘徊中に事故を起こし賠償責任を求められたときに備え、市が代わって個人賠償責任保険に加入する事業を開始している。当市でも認知症高齢者の見守り事業や徘徊者の早期発見につながる取り組みを行っているが、さらに三条市のような個人賠償責任保険の導入に向けた取り組みを行っているかどうか。

**答** 近年、民間の保険会社には、個人で比較的安価に加入できる「認知症保険」があり、また、本市では徘徊高齢者早期発見ステッカー配布事業や高齢者等見守りネットワーク会議等の取組を行っているため、現時点では、事業の導入を考えていないが、引き続き、認知症高齢者の安全・安心な生活、家族の不安や負担軽減につながる各種取組について検討したい。



横山 正樹

## 市民生活を脅かす世界的な問題への市の対応について問う



ロシアのウクライナ侵攻による影響が食料問題・エネルギー問題・物価高と全世界の市民生活を苦しめている。また、気候変動・温暖化の影響が人間が生きるための基盤が脅かされている。地球規模的な様々な問題は、魚沼市にも大きな影響を与えている。この問題に魚沼市はどのように対応していくのか、市長の見解を問う。

**問** 日本の自給率が37%と低い中、ロシアのウクライナ侵攻によって穀類や肥料の国際価格が高騰している。自給率を上げるためにも、小麦に代わる米粉用米の作付けや豪雪地魚沼産麦栽培の推奨を考えるとどうか。

**答** 米粉米や麦の作付けは、国も推奨して食料自給率を上げる必要性は理解している。しかし、需要の見込めるコシヒカリの作付けと比較して農家の収入面に課題があるため、今現在、積極的な推奨は考えていない。今後の魚沼産コシヒカリの需要動向により本市にあった作付け支援を関係機関等と検討していく。

**問** 肥料の高騰対策として、魚沼市有機センター肥料の販売促進に取り組んだらどうか。

**答** 利用促進事業の展開や、持続可能な農業生産への寄与から注目を集め、水田への散布面積の増加や家庭向け小袋販売が好調である。今後、肥料の高騰対策として期待できるため、安定した堆肥の製造や散布ができるようペレット堆肥の製造などの課題を解決するため関係機関と検討を進めていきたい。

**問** 魚沼市にある資源(木・草・もみ殻・野菜くず等)を活用したバイオマス発電やごみ処理施設の熱を利用した発電に取組むことを考えてはどうか。

**答** これまでバイオマスの利活用や、ごみ処理施設の熱利用事業に取り組んでいる。市が主体となってバイオマス発電事業を実施することは、経営のノウハウや経済性の観点から現時点では考えていない。ごみ処理施設の熱利用発電も現施設の焼却施設規模では、非効率とされるため考えていない。



大平 恭児

### 市内中小企業の人材確保と魅力発信を問う



8月に行われた、ものづくり振興協議会主催のオープンファクトリーへの参加で、改めて市内企業の力を再認識した。そこで、以下の認識を問う。

**問** 市内企業の人材確保の現状はどうか。

**答** 人材不足等の課題に対し、募集しても応募者がいない一方で、毎年、新卒者等を採用している企業もあり、人材確保の取組に差が生じていると感じる。従来の求人票や就職サイト等への掲示に加え、福利厚生など待遇改善の取組を進めているが、人材獲得競争が厳しさを増し、求職者へ自社の魅力が十分届いていないのが現状と考える。

**問** 昨今の厳しい経営環境の中で、経営相談などどう取り組んでいるか。

**答** 身近な相談窓口として各商工会の経営指導員による相談や各事業者が依頼する社会保険労務士、税理士等において経営相談を行なっている。また、企業を取り巻く環境は年々複雑化していることから、国や県にいがた産業創造機構などが実施する無料の相談窓口を案内している。

**問** 市内企業の魅力発信のために、ものづくり企業などと連携してキャリア教育やコミュニティスクールなどを活用し、市内で見本市など開催してはどうか。

**答** 見本市の開催も含め魚沼ものづくり振興協議会や市内各商工会等とも連携しながら、より効果的な施策となるよう引き続き取り組んでいく。

教員の多忙化について

**問** 教員のサポート役の学習補助員の業務内容や勤務時間はどうか。

**答** 主に、教職員とのチームティーチングによる学習指導の補助や教材準備、学校生活における生徒指導の補助を行ない、1日7時間勤務となっている。

**問** 学習補助員は加配もすべきではないか。

**答** 学校訪問及びヒアリング調査を通じて、各学校のニーズ等を把握し、児童生徒へのきめ細やかな支援がいきわたるよう実態にあわせた職員配置を進めていく。



佐藤 達雄

### 新型コロナウイルス感染症対策を問う



新型コロナウイルス感染症は減少傾向にあるとはいえ、対策の手を緩めるべきではなく、感染の早期確認などを続けるべきだ。次の点について問う。

**問** 介護施設や保育園などで必要に応じ何回でも検査を受けられる市独自の体制を講じてはどうか。

**答** 保育園では必要な検査キットが配布されている。高齢者施設等では配布終了となっており、市内4カ所の無料検査所を活用して欲しい。

**問** 介護施設等の利用者及び職員への6～8月の感染者数と、そのうち入院者の人数はどのくらいか。

**答** 施設感染者は利用者37名、職員55名、入院者は利用者7名である。

**問** 施設あるいは自宅療養者に対する、的確な支援体制がとられているか。

**答** 県が健康観察や医師による診察等を行っており、病状急変時には救急車の要請をお願いするなどの特例がとられている。

農業後継者対策について

農業従事者は高齢者が大変多く近

い将来の大量離農による担い手の激減が予想され、早急な後継者対策が必要だ。次の点について問う。

**問** 6月議会で水田交付金カットを止めるよう要請すべきと求めたが、その後の状況はどうか。

**答** 市農業再生協議会からは「農地を誰も引き受けずに耕作放棄地が増える」との意見を県に、また、北信越市長会を通じて「交付金の充実」の要望を国へ提出している。

**問** JAや市では、新規就農サポート宣言等を行っているが、新規就農者の実績はどうか。

**答** 実績は平成29年8人、平成30年9人、令和元年6人、令和2年7人、令和3年10人。

**問** 農地、機械の斡旋、営農資金の相談等の支援を強めるとともに、市ホームページでもしっかり呼びかけるべき。

**答** 新規就農者育成支援事業、機械の補助等を行っている。情報発信方法は、関係団体含めて再度検討していきたい。



高野甲子雄

## 「米を食べる」運動の推進を問う



日本の食料自給率は37%と極めて低くなっている。今、国際的には発展途上国の人口増加、異常気象による農作物の被害などで穀物価格は高騰し続け、コロナ禍で物資全般の価格の高騰が追い打ちをかけている。ロシア軍のウクライナ侵攻で食料、エネルギーの供給事情にもさらなる悪影響が及んでいる。

日本は今、「外国から食料を買う」政策からの転換を図らなければならぬときである。そのうえで、以下の点を問う。

**問** 「食まっちゃうおぬま」の運動として「米を食べる」を市は強力に進めるときである。市長の考えはどうか。

**答** 学校給食でのコシヒカリ使用を進めており、今後も継続していく。

**問** 「食の貧困」が言われてきた

反面、昨年は「米余り」が言われ、米価の大暴落も言われた。米作り農家からは「米を食べて！」の声が上がっている。①「飯が炊ける」②「おにぎりが作れる」人を育てることが「食まっちゃうおぬま」の具体的推進力となると確信する。貧困対策にもなる。「早寝早起き朝ごはん」運動を提唱する考えはないか。

**答** 市内小中学校では、各校が定めた食に関する指導計画を基に、学校全体で食育活動に取り組み、早寝早起き朝ごはんも含め、発達段階に応じた指導をしている。また、生活・家庭科の授業においても調理の仕方や栄養バランスの良い食事について学習している。各校が、それぞれの実態や特色に合わせて活動に取り組んでいる。



渡辺 一美

## 魚沼市地域公共交通計画について問う



令和3年3月に策定した魚沼市地域公共交通計画は「地域の实情に即した地域公共交通網の整備」、「地域公共交通の利便性向上」、「地域公共交通の適切な提供」、「地域公共交通施策への住民参画」、「施設との連携による利便性向上」、「交流人口拡大への貢献」の6つの目標を設定している。そこで次の点を問う。

**問** 「地域公共交通の利用促進」のためには、まずは市職員の通勤利用促進を図るべきと考えるが、現在公共交通を通勤で利用している職員は会計年度任用職員も含め何人何%か。

**答** 本年8月末現在で4人、率にして0・4%となっている。職員への利用促進は様々なケースがあるので働きかけをしていく。

**問** 「地域公共交通情報の適切な提供」実現のため、岐阜県中津川市では「GTFIS」データを整備、オープンデータ化しインターネット上から目的地までの利用交通の時刻表

と乗り換えの検索ができるようにしている。当市でも整備活用できないか。

**答** 「GTFIS」、いわゆる「標準的なバス情報フォーマット」の活用は、バス事業者の協力が不可欠となる取組のため、沿線自治体の動向にも目を配りながら将来的な課題としたいと考える。

**問** 石川県の珠洲市では今年度より全ての公共交通を無料にしたが研究すべき事例と考える。先進地に職員を派遣するなどの取組も必要と考えるがどうか。

**答** 無料化は、利用促進に向けた一つの起爆剤となり得る可能性もあるが、公共交通は公費が投入されている側面から、一定の受益者負担は必要と考えるため直ちに無料化を実施する考えはない。先進地の事例研究については、必要があれば、しかるべきタイミングで職員を派遣をするなど今後の課題としたい。



# 総務文教委員会報告



7月15日・8月3日・9月1日・9月13日に委員会を開催した。

## 1 審査事件

### 陳情第1号

「コロナ禍においても私立高校生が学費の心配なく学び続けられるよう、私学助成の増額・拡充を求める意見書」の採択を求める陳情（9月13日）

※不採択とすべきものと決定した。

議案第81号・84号・85号

（9月13日）

※原案可決すべきものと決定した。

## 2 調査事件

① 広神地区スクールバス運行委託業務における再委託承諾の取り消しについて（7月15日）

その後の経過について（8月3日）

広神地区スクールバス運行業務において、業務受託者の再委託先に、不誠実な行為があったため、再委託の承諾を取り消した。執行部からは状況や経過及び対応について説明があった。この件については、引き続き調査を行なうこととした。

### 問

再委託しなければならなかった原因は。

臨時便の対応などの際に、運転手の確保が厳しくなる可能性が高いという内容での申請がなされていた

ため、確実に運行ができるようにこちらも承諾した。

再委託でスクールバスを運行している路線はどの程度あるのか。

再委託は、この路線のみとなっている。

学校トイレ洋式化工事の経過について（7月15日）

3月22日開催の委員会で報告を受けた、令和3年度からの事故繰越のトイレ改修工事の工事完了について説明があった。

小出地区まちなか再生事業ワークショップの開催状況について（8月3日）

全5回のワークショップを予定しており、現在、第3回が終了したことにともない経過等及びアンケート結果について報告を受けた。

今後のワークショップの傍聴の場と考えている。

アンケートの中で、生涯学習センター（旧小出庁舎跡地）までの交通手段について、市バス・乗り合いタクシー利用が10名とあるが、今後高齢者が増える中で市バス・乗り合いタクシーのさらなる利用に向けた仕組みづくりをどうするのか。

乗り合いタクシーはダイヤ等の関係で、所管課と協議した中で、利便性向上に向け検討する。

一般財団法人魚沼地域づくり振興公社の解散について（9月1日）

現在、解散に向けて公社とともに進めている。公社に対する出捐金について報告を受けた。

その他

7月13日発生の大雨への対応について

魚沼ケーブルテレビ放送の通信障害の発生について

新型コロナウイルス感染症陽性患者に対する食料支援の取扱いについて

予備費の充用について

旧小出庁舎の解体について

学校法人タイケン学園について

広神地域定期路線校外学習バス運行管理業務委託における受託業者の処分について

日本遺産の再審査について

魚沼市生涯学習センター（仮称）

このアンケートとは別に、今後市民の方に幅広く意見を聞く考えは



第5回小出地区まちなか再生事業ワークショップ

# 産業厚生委員会報告



建設にともなう設計者への質疑等について

定員適正化計画改訂の考え方について

財政計画改訂の考え方について

魚沼ケーブルテレビの今後の在り方検討に向けた市民への現状周知・意向調査表について

ハラスメント調査結果集計について

小出地区まちなか再生事業ワークショップの開催状況について

特定空き家の状況報告について

不祥事の再発未然防止に向けた公務員倫理の徹底と準公金取扱いマニュアルの制定について

7月11日・8月12日・9月14日・10月3日に委員会を開催した。

## 1 審査事件

議案第82号・83号・86号・88号

※原案可決すべきものと決定した。

## 2 調査事件

（7月11日開催分）

① 魚沼市内スキー場について

# 産業厚生委員会報告



市長から、魚沼市内スキー場の存続方針（案）について説明を受け、前委員会に引き続き質疑を行った。業者とするのに市はどのように関与するのか。

**答** 民間主導で協議体を作って進めていたが、市も積極的に関与していく。座長に専門家である中小企業診断士を選任したい。

**問** 5年では長い。3年間で一定の結果を出す目標で、年次ごとの行程を示して進めてはどうか。

**答** 2年度中に協議体を設置し、出来ることから進めていきたい。

**② 行政視察について**  
行政視察先での質疑事項を取りまとめ、事前に送付することとした。(8月12日開催分)

**① 魚沼市内スキー場について**

市長から、7月20日にスキー事業者と協議を開始したこと。公共投資の根拠を明らかにするため条例を制定したいこと。指定管理の期間は当初3年間とし、その間に将来方針の結果が出た場合は2年間延長する。

薬師スキー場のリフト架け替え工事及び中小企業診断士を依頼する補正予算を、9月議会に提案したい。との説明を受け、質疑を行った。

**問** 薬師スキー場の投資を先行するわけだが、ほかのスキー場の短期的投資計画はどうか。

**答** ほかのスキー場については、短期計画を委員会に示し、5年度以降の予算付けで対応したい。

**問** 薬師スキー場の地元や地権者に對する説明は進んでいるのか。

**答** 予算が通り次第始めたい。

※市長の方針は委員会で承認した。

**② 寿和温泉の改修工事及びプール棟の閉鎖について**  
浄化槽設備などの追加改修が必要となり。9月議会の補正予算で対応したいとのこと。

プールは建物の老朽化、設備の腐食劣化のため継続使用が困難となり、4年度末で閉鎖する方針が示され、質疑を行った。

(9月14日開催分)

**① 魚沼市内スキー場について**

市長から、3スキー場の短期的投資計画の概要が示され質疑をした。

**問** 短期計画では、改修対象となっていない古いリフトや圧雪車もある。このまま使い続けられるのか。

**答** メンテナンスは必要だが、休止している施設から機材等を流用する形で修繕は可能と考えている。

**② その他**

● 立地適正化計画 防災指針検討業務委託について(ハザードマップ情報を立地適正化計画に反映させ、将来の防減災対策の指針とする)

● 川西簡易水道の水圧上昇事象におけるその後の経過について(13件の被害世帯に対する補償と再発防止)

● 養護老人ホーム「南山荘」の移転先について(旧湯之谷東小学校の跡地を建設候補地とする)

● 堀之内社会福祉センターの所有権移転について

● 介護保険料等に係る事務誤りについて(ご迷惑をかけた対象者への対応と再発防止について)

● 「ふれあい交流センターこまみ」の入湯税課税免除規定の見直しについて(合併当初から引き継がれ、見直しされていなかったもの。今後条例改正が必要となる)

● 物価高騰対策について(住民税非課税世帯5万円給付)

● コロナワクチン関係について

● 市民の声を聞く会での意見、要望事項の取扱いについて

● 新潟県後期高齢者医療広域連合議会定例会の報告について

### 中長期的大型事業 特別委員会報告



8月22日に委員会を開催した。

1 調査事件

**① 小委員会委員長報告**

6月14日、6月28日、7月12日、7月19日、8月5日に行われた小委員会の報告を以下のとおり受けた。  
小委員会運営方針、現地調査の選定、現地調査、現地調査の総括。

**② 提言書(案)について**  
提言書(案) について協議し、議長に提言書(案)を提出することとした。

**③ 本特別委員会の審査・調査の終了について**  
審査・調査を終了することとした。

### 議会運営委員会報告

7月20日に委員会を開催した。

1 調査事件

**① 現地調査**

燕市議会へ「議会におけるタブレット端末の導入と活用について」現地調査を行った。

**② 現地調査の総括**

データ化を進めることで検索が容易になり、大量の紙文書の保存が必要なくなるほか、ペーパーレス化による資源削減にもつながる。  
タブレット運用ルールを決めたうえで利用し必要な見直しを進めていく。



燕市でのタブレット操作説明の様子



## 自然のままに

大倉沢 志田徳子さん

大倉沢5組、8軒に我家はある。玄関の戸を開けると、正面に権現堂山、金毘羅山、そして西に越後三山は連なり、我村を見下らしている。その山その麓を蛇行しながら流れる破間川は、守門岳、浅草岳の雪解水を集めて、清流である。この破間川の鉄橋を何回も何回も渡りながら、只見線は福島県全体に向かって走って行く、1日3回、空席のままで行く。東京から遊びに来た友達の息子が「あつ、只見線が来た。」と、家を飛び出て、庭に直立不動で見送っている姿が可愛い。

さて、5組8軒について語らう、大倉沢に向かってなだらかな坂道に沿ってお地藏さん、虫供養の墓石が並んでいる。道に沿って10軒家は建っているが、2軒は今流行の空家である。8軒が世界を現わしている。100歳の可愛いおばあさん、0才と3才の兄弟、中学生が2人、高校生が1人、1人暮らしの年寄り3人と、必要な人は揃っている。そして朝が始まる。

## 魚沼市の観光について

栗山 風間義則さん

観光資源豊かな魚沼市であるが、自主財源の少ない現状で観光誘致による経済の回復を見直す必要があると思う。

近年では環境教育やツーリズムへの取組が始まるも、社会全般のレジリエンスやインバウンド対応の遅れ、また、震災や豪雨災害、コロナ禍といった利用面での大ブレーキとなるべきことが重なった。これらのできごととは魚沼市の観光利用者数だけでなく、地域経済の低迷を引き起こしている。

観光産業の維持を図るため、行政による支援・助成と安心・安全の推進に重点を置いた対応はもつとも肝要である。旅行補助事業等の需要喚起策をはじめ、経営継続や雇用維持のための観光産業への支援策を状況変化に対応しながら継続的な実施を期待したい。

コロナウイルスの収束後（ポストコロナ期）は、観光客のニーズに対応するためさらなる進化が必要であり、コロナ禍により喚起された自然・野外・体験など個人の嗜好や関心への的確に対応できる観光地づくりも進める必要がある。観光コンテンツの高付加価値化や交通機関の利便性向上に向けた取組等、観光地が一体となった観光客の利便性向上に取り組むことが重要となり、ポストコロナ期における新たなコンテンツ開発やプロモーション活動に向けた的確な準備を進めたい。

## 議会TOPICS

# 中学生の職場体験学習

9月14日(水)・15日(木)の2日間、小出中学校2年生の大平しずくさんと大塚頼輝さんが議会事務局へ職場体験に来てくれました。

2人からは、常任委員会へ出席してもらい、会議録の文字起こしや、議会だよりのVoiceの取材に同行したりといろいろ体験していただきました。仕事に対し、一生懸命取り組み、対応力の速さに驚きました。体験を通して2人からの感想を紹介します。



中学生に表紙の絵を選んでもらいました。

自分は前に出ることはそんなに得意でないけれど、裏方として議員さんをサポートするような仕事はとても楽しかったです。(大塚さん)

委員会の文字起こしは、難しい言葉がたくさんで、聞きとりながら文字を打つのは大変でしたが、一通りすると達成感が味わえてとてもやりがいを感じました。(大平さん)

## あとがき

地球温暖化対策と聞いてから、もう久しく感じられます。今年も想定外の豪雨災害が日本列島各地で猛威を振るっています。県内でも村上市や関川村において甚大な被害が発生し、身近での発生がないことを願うばかりと同時に、何とか防げないものかと思ってしまう。魚沼市では、地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の中で、地域に密着した取組と推進方法が、我々市民向けに示されています。

地球温暖化対策といっても、目標が大きすぎて何から進めたらと思いましたが、毎日の暮らしの中で、できることから始めることが記されています。できることからコツコツと積み重ねることが大きく社会に貢献すると思います。もうこれ以上、地球をいじめないためにも、地球にやさしい一歩を始めませんか。

(大桃俊彦)